

Excellent: 4

1. 上顎犬歯の咬頭頂が近遠心的に、下顎犬歯とそれに接する小臼歯との間の鼓形空隙の1mm以内にあり、かつ両方に接触している。
2. 上顎小臼歯の頬側咬頭の三角隆線が近遠心的に下顎小臼歯と第一大臼歯のコンタクト部の1mm以内にある。
3. 上顎第一大臼歯の近心頬側咬頭の三角隆線が下顎第一大臼歯の頬面溝に一致している。(近遠心的にずれが0.5mm以内である)
4. 上顎第一大臼歯の近心舌側咬頭が下顎第一大臼歯の中心窩周囲の隆線と接触している。

以上4項目すべてをクリアーしていること

Acceptable: 3

上記4項目のうち3項目クリアーしていること

Moderate: 2

上記4項目のうち2項目クリアーしていること

左右側で評価差があった場合には、グレードの低い方のスコアを採用します。

図1-1

臼歯、犬歯の咬合状態評価基準

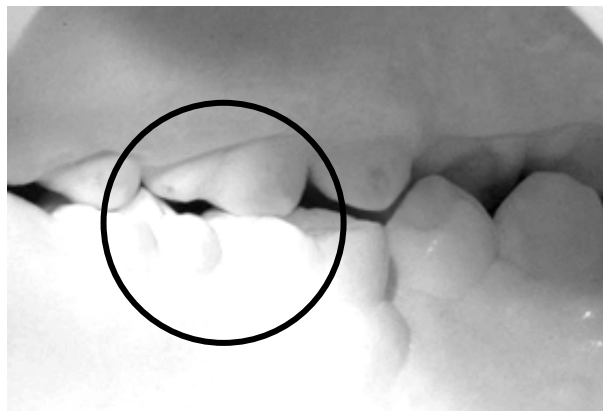
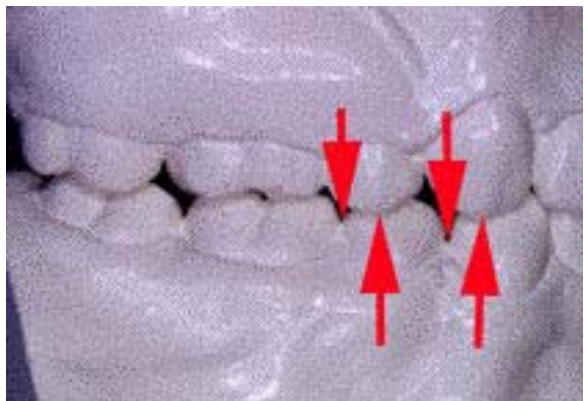
Poor : 1

上記4項目のうち1項目はクリアーしていること 且つ
(and) 下の①and②を満たしていること。

①上記項目2, 3の近遠心的なズレが2mm 未満
であること。

且つ

②上顎の舌側咬頭と下顎の中心窩周囲の隆線
との離開する距離は3mm未満であること。



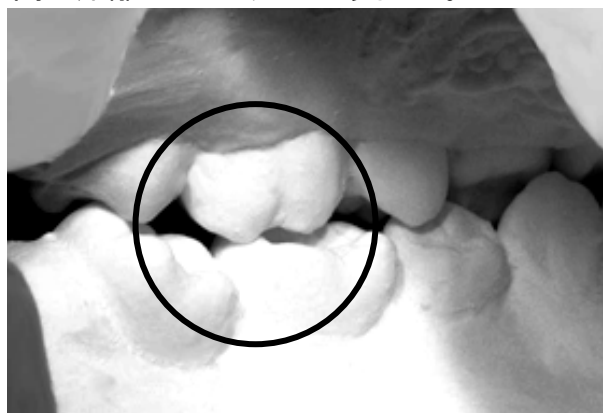
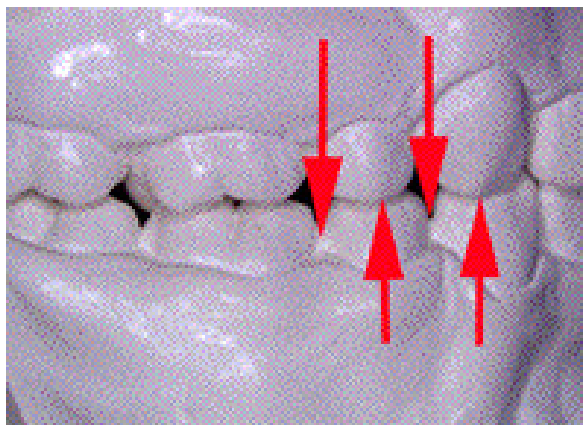
左右側で評価差があった場合には、グレードの低い方のスコアを採用します。

Unacceptable : 0

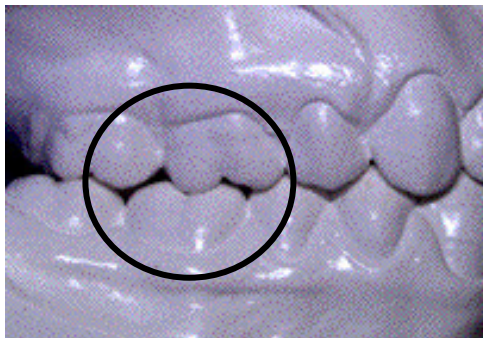
上記4項目のうち1項目もクリアーしていない または
(or) 下の①or ②に当てはまること

①上顎の小・大臼歯の咬頭が2mm以上ズレている。 または

②上顎の舌側咬頭と下顎の中心窩や辺縁隆線
間の距離は3mm以上であること。



II 級



上顎小臼歯抜歯により生じたアングルII級関係の咬合の場合は、前記4項目のうち、2, 3, 4の項目を以下の記載に変えて評価することとする。

2. 上顎第一大臼歯の近心頬側咬頭の三角隆線が、下顎の第二小臼歯と第一大臼歯の間の鼓形空隙あるいは歯のコンタクト部に、近遠心的に1mm以内のズレで位置する。
3. 上顎第二大臼歯の近心頬側咬頭の三角隆線が、下顎第一、第二大臼歯のコンタクト部に、近遠心的に1mm以内のズレで位置する。
4. 上顎第一大臼歯の近心舌側咬頭が下顎第二小臼歯遠心小窩に、あるいは下顎第一大臼歯近心辺縁隆線と下顎第二小臼歯遠心辺縁隆線に接触する。

III 級



下顎小臼歯抜歯により生じたアングルIII級関係の場合は、前記4項目のうち、2, 3, 4の項目を以下の記載に変えて評価することとする。

2. 上顎第二小臼歯の頬側咬頭の三角隆線が下顎第一大臼歯の頬面溝にほぼ一致する(近遠心的なズレが1.5mm以内である)。
3. 上顎第一小臼歯は下顎小臼歯と下顎第一大臼歯に接触する。
4. 上顎第一大臼歯の近心舌側咬頭が下顎第二大臼歯近心辺縁隆線と下顎第一大臼歯遠心辺縁隆線に接触する。

図1-3 片顎抜歯時の大臼歯咬合状態



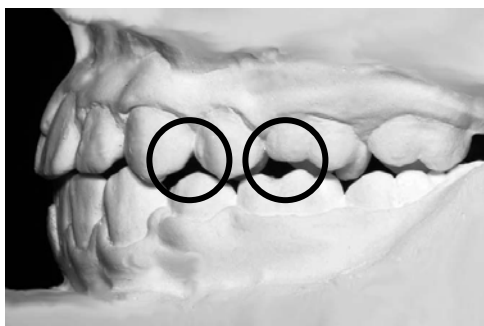
1) Excellent : 4
上下の歯と歯の間に直径1.0mm鋼線
が通らない。



2) Acceptable : 3
1.0mm線は通るが
1.2mm線は通らない。



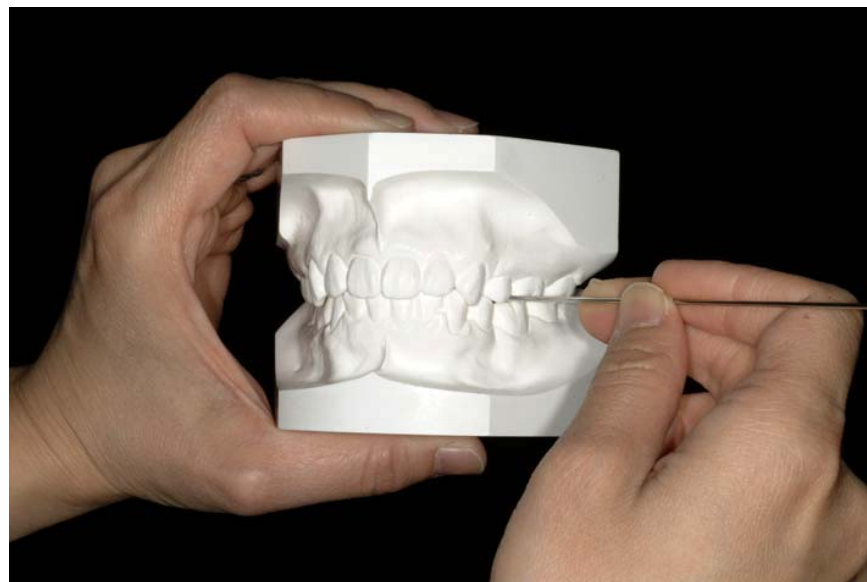
3) Moderate : 2
1.2mm線は通るが
1.5mm線は通らない。



4) Poor : 1
1.5mm線が通る。

犬歯から第一大臼歯にかけての咬合の緊密性を評価する方法です。

空隙の測定ガイドとして直径1.0mm, 1.2mm, 1.5mmの鋼線を用います。



測定ガイドとしての鋼線は模型の咬合平面に必ず平行、かつ歯列弓に直交する角度で用います。

左右側で評価差があった場合には、グレードの低い方のスコアを採用します。

図2 咬合の緊密性の評価基準